

狛犬の歴史

岡本祥一

予科5-7
航空16-4
(川口市)



1. まえがき

「コマイヌサン ア コマイヌサン ウン」、小学1年生国語教科書の1節を記憶されている方も多いであろう。鎮守の森、秋祭り、おみこし、子供の頃の懐かしい思い出に結びつく。全国ほとんどの神社の入り口で静かに悪霊の侵入を防いでいる。しかしあまりにも身近にある故か一般の人々の関心は薄い。



第1図 小学1年教科書の狛犬

(昭和10年~14年)

偕行誌最近号の花だよりに「靖国神社の狛犬」と題して簡単な解説を試みた。この機会に狛犬について調べ始めたところ、意外と古い、そして深い起源、歴史があることを知り驚いている。

2. 起源

狛犬、唐獅子、獅子舞の獅子のルーツはライオンである。スフィンクスは狛犬の親類筋に当たる。研究者は今でも狛犬を「獅子・狛犬」と呼ぶ。一般に、向かって右の阿形が獅子、左の吽形が狛犬である。

人間とライオンのかかわりの歴史は5千年以上遡り、古代オリエント、チグリス・ユーフラテス文明にそのルーツを見出すことができる。例えば、最初の王朝、ウル王朝の時代には獅子を象った首飾りが作られており、ルーブル博物館に展示されている。また古代オリエントの王が使用した椅子にはライオンの彫刻が施されている。百獣の王として畏敬されるライオンはその力強さと颯爽とした姿ゆえに神格化され、帝王のシンボルとされてきた。またその獰猛さゆえに守護神としての機能も重視され利用されて来たのである。西方のこのようなライオンの守護獣としての思想がインドの初期仏教と結びつき、シルクロードを通して中国から我が国に渡来したのである。

我が国最古のライオン像の一つとしては、法隆寺金堂内陣東の間に安置されている金銅薬師如来座像（推古15年（607）？）の台座に見られる。木造二重の須弥座の下座両側面に獅子形らしきものが各一躯ずつ描かれている。剥落が激しく模様の詳細は分からないが、四肢を立てて仏像に向かって歩いている姿のようである。歩行の獅子像は珍しく、六朝時代南朝陵墓にもこれとよく似た姿の一对の獅子像があると指摘されている。

3. 舞楽面としての狛犬

狛犬という名が最初に見出せるのは平安時代初めの舞楽関係の資料においてである。延暦二年（801）の「多度神宮寺資材帳」に「高麗犬壺頭」とある。舞楽の面

として中国から招来されたものであろうと言われている。

舞楽の面としては獅子・狛犬が一对をなしており、頭上に宝珠を頂くものを獅子、一本の角を有する物が狛犬である。

「安祥寺資材帳」には「狛犬頭二面」とあり、これらが獅子と狛犬を指しているとするれば、このころすでにこの一对を「狛犬」と総称していたのであろう。

「獅子頭」の遺品としては正倉院の木造獅子頭九面がある。西域伝来の伎楽に使われていたものと推察されている。桐材製七面、ホウ材製二面で、いずれも耳、下顎、舌が自在に動く、かなり動的なものであった(第2図)。



第2図 獅子頭(正倉院)

法隆寺に残る一对の獅子頭(平安前期)では、頭上に宝珠と一角をつけており、獅子・狛犬の一对でセットになるものと考えられる(第3図)。

この組み合わせの源流は矢張り中国にあったと考えられる。北魏(386~534)時代の洛陽の寺院についての記述「洛陽伽藍記」長秋寺の項に、毎年四月四日の降誕会での行像では「辟邪・獅子、その前を引導す」とあり、それらの面をつけた演者が仏像の前を練り歩いたのであろう。ただ、辟邪が狛犬のような一角獣であったかどうかは不明である。



第3図 獅子(上)・狛犬(下)
(法隆寺)

4. 彫像としての狛犬

時代が下がると面だけでなく木製の彫像が作られるようになる。「延喜式」(905~927)(巻第四十六)に元日や即位式の際に「兕(じ)」の像を作って庭に置くことを定めている。

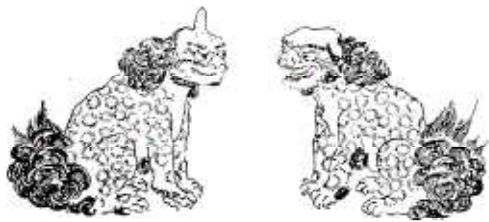
「凡そ大儀の日は、兕像を会昌門の左に居く。事畢りて本府に返収す。」とある。兕像は重要な儀式に邪の入り込むことを防ぐ辟邪のためであったことは容易に類推される。左右一对の像ではないらしいが、中国で当時信じられていた霊獣のことであろう。頭に一本の角が生えている獣である。舞楽の狛犬も角が生えていたが、兕は狛犬とも称せらるべきものと考えられている。

平安中期の宮中では、御簾や几帳の裾のあおり止めの鎮子として小型の獅子・狛犬像の置物が用いられていた。「枕草紙」(初稿成立は996年頃)に

「・・・御簾よりはじめて、きのふかけたるなめり、御しつらひ、獅子・狛犬等、い

つほどにか入りけむとぞ、おかしき」とある。やはり邪を払う意味があったのではないかと思われる。

舞楽面でなく彫像の守護獣で、獅子一対ではない獅子・狛犬一対の組み合わせが成立した時期は必ずしも明らかでない。この組み合わせを固定的にするきっかけを、宮中紫宸殿の賢聖障子に描かれた獅子・狛犬の画像に求める意見がある。その成立期は不明であるが、少なくとも九世紀後半（寛平年代）には作られていたと考えられている。その頃のものはもちろん現存しないが、幸いなことに慶長時代（1596～1615）再建の紫宸殿の賢聖障子が京都仁和寺に現存している（第4図）。古式を尊重する宮中の風習から、古い獅子・狛犬の姿を忠実に伝えているものと推察されている。



第4図 賢聖障子の狛犬（仁和寺）

賢聖障子とは、紫宸殿の母屋と北庇の間にはめられたもので、中国の殷から唐に至る三十二人の賢聖を並べ、中央に獅子・狛犬、その上に文亀を描くという形式のもの。社寺に残されている古い狛犬の木像では、奈良薬師寺の例が知られている（第5図）。同寺の鎮守八幡社に祀られていたもので、二像ともほぼ同じ大きさである。いずれも角を持たず、獅子一対とすべきであろう。ヒノキ材で奈良様の荒々しい獅子の影響が強く見られるとのことで造立年代は「寛治元年」（1087）年と推定されている。



第5図 奈良薬師寺の獅子（52cm）

1. 石造りの狛犬

我が国で最も古い石造り狛犬は、奈良・東大寺南大門の狛犬である（第6図）。大仏を見据えて邪鬼の侵入を八百年以上の昔から防いでいる。建久七年（1196）、大仏修理に際して宋人鋳物師「陳 和卿」が作ったものである（東大寺造供養記）。石材は中国から運び込み、その姿は角張った顎、台座の蓮華、雲文などの宋の様式を示しており、全体に姿も唐獅子風である。特徴的なことは、阿吽の形式ではなく左右とも口を開けた同じ姿であり、どちらにも角がない。大仏殿から見て左の像は高さ180.5cm、右の像は160cmである。



第6図 東大寺南門の狛犬
（東側、高さ180.5cm）

6. 和様の狛犬

平安時代後期、12世紀後半になると次第に和様の造形が取り入れられるようになる。典型例が巖島神社の狛犬像と言われている。当社に残る十四軀の獅子・狛犬のうち数軀は仁安四年（1160）平清盛の社殿造営に相前後する時期の作成と考えられている（第7図）。



第7図 巖島神社。獅子・狛犬の一例

（高さ：阿58.4cm、咩60.9cm）

これらの造形に注目すると、例えば“たてがみ”は豊かであるが、跳ね上がるのではなく体に沿って流れている。全体としてそれまでに見られた野獣の持つ荒々しさは感じられず、穏やかな世界に静かに佇む印象が強いと言われている。農耕民族としての日本人の穏やかな精神構造が取り込まれたのであろう。

春日大社に奉納された平安後期の銅製狛犬1軀が神宝として伝えられている（第8図）。

力を抜いたおとなしい顔貌はこの時代の穏やかな和様の狛犬の特徴を良く示すといわれている。御簾や几帳のあおり止めに用いられた鎮子であり、一本の角を頭上に持つ。獅子と共に一対として収められたかどうかは不明である。



第8図 春日神社神宝の狛犬

7. 神社と狛犬

平安時代の宮中の儀式について順徳天皇の手による「禁秘御抄」（1221）の清涼殿の項に「獅子・狛犬在帳前南北 左獅子」「御帳如恒 無几帳有獅子狛犬立椅子」とある。同じような記述が当時の記録に多く見られ、「獅子・狛犬」が宮中に深く取り入れられていたことが分かる。

宮中の調度品としての「獅子・狛犬」が神社に取り入れられた経緯については上杉千郷氏が次のように考察しておられる。古来神社には神像は無かった。大和、桜井大神神社にその例が見られる。しかし平安後期頃、仏像にならって神像が作られるようになった。神像は最も尊い天皇のお姿を写すことになり、その周りの調度品は宮中の儀式に習うこととなった。このような経過で神前に「獅子・狛犬」が守護獣として置かれるようになったのであろう。当時の獅子・狛犬は小さな社殿の神像の前に置かれたので小型のものが多く。

8. あとがき

時代が下がり現在のように参道を守る一般の神社の狛犬は、江戸時代前期から設置されるようになった。氏子の奉納によるものが多い。東照宮造営の際に大名が狛犬を

奉納したことがきっかけとなったとの説がある。

伊勢神宮には狛犬はいない。遙かな古代のままの姿を今に伝えているためと言われている。

また京都の神社の多くには狛犬はいない。歴史が古い神社が多いことから伊勢神宮と同様に、古代のままの姿をとどめるためかもしれない。

明治新宮の参道にも狛犬は見当たらない。社殿の最奥にある、御神霊の魂依代と言う神聖な場所に置かれているそうである。参道に狛犬を置くと外観上良くないと、宮大工の意向と、守護獣として御神霊の近くに安置すべきとの考え方を取り入れたそうである。

【参考文献】

「日本の美術史8」、No.279、「狛犬」

伊東史郎。1989年8月。

「ライオンの果ては狛犬」日本経済新聞、

Weekend Nikkei、1990年8月

{狛犬}、下呂温泉合掌村狛犬博物館図録、

上杉千郷、1993年7月。